

## ジェロントロジー（老年学）研究に関する助成の決定と ジェロントロジー研究報告No. 12の発行について

公益財団法人損保ジャパン日本興亜福祉財団（理事長 二宮 雅也、以下「損保ジャパン日本興亜福祉財団」）は、2016年度ジェロントロジー研究助成として、16件の対象者に合計約800万円の助成を決定しました。また前回（2014年度）の助成による研究成果を取り纏めた「ジェロントロジー研究報告No. 12」を発行しました。

### 1. ジェロントロジー研究助成の概要

損保ジャパン日本興亜福祉財団が実施しているジェロントロジー研究助成は、高齢者福祉の増進に資することを目的にジェロントロジーに関する社会科学・人文科学分野における研究に助成を行う事業です。今年度は、2016年4月から7月にかけて公募したところ、48件の応募があり、16件（1件50万円上限）の助成を決定しました。本助成は1993年より隔年で実施しており、一昨年までの22年間で助成先は累計219件、助成額は合計約1.4億円となっています。

### 2. 助成金贈呈式の開催予定

助成金の贈呈式は、首都圏地区の助成先を対象に損害保険ジャパン日本興亜株式会社の本社ビルにて、2016年11月に開催する予定です。

### 3. 研究報告の発行

前回（2014年度）の助成による研究成果を「ジェロントロジー研究報告No. 12」（B5版・154ページ）として発行しました。本報告書には19件の研究成果が収められており、高齢者の社会活動、介護者のスキルの向上など幅広い研究テーマを取り上げています。

なお報告書の内容は、損保ジャパン日本興亜福祉財団ホームページに公開いたします。

#### <損保ジャパン日本興亜福祉財団について>

損保ジャパン日本興亜福祉財団は、損害保険ジャパン日本興亜株式会社の出捐を受け、社会貢献活動の一翼を担う財団として設立された公益法人です。同財団の主な活動は本研究助成のほか、社会福祉・社会保険・損害保険の研究会や講演会の開催、わが国における優れた社会福祉学術文献の表彰（「損保ジャパン日本興亜福祉財団賞」）およびこの受賞者による講演会・シンポジウムならびに介護福祉士養成のための奨学金の給貸与助成などを行っています。

※共同研究の場合代表研究者

形態	対象者※	所属	研究テーマ
共同	伊藤 直子	日本医療科学大学	高齢者の嚥下機能に及ぼす呼吸筋トレーニングの効果
共同	伊藤 美智予	認知症介護研究・研修大府センター	災害時における認知症ケアマネジメントに関する研究—地域で暮らす認知症の人と家族が直面する課題と支援策の検討
共同	井上 忠俊	恩賜財団済生会 むさし苑グループ 大野城市南デイ サービスセンター南風	地域在住高齢者における眼球運動と歩行の安定性の特徴—認知症早期発見に対する評価手法の妥当性の検討—
単独	大木 裕子	東洋大学	文化の消費者としての高齢者～「大人の遊び場」創出による豊かな生活の実現
共同	岡崎 研太郎	名古屋大学大学院	要介護・要支援の在宅高齢者を対象とした参加型演劇ワークショッププログラムの改良と効果の検証—社会実装を見据えて—
共同	岡村 毅	東京大学医学部 附属病院	認知症の人の社会的包摂を実現するための稲作ケアの試み
共同	小倉 真衣	京都大学大学院	住民同士のつながりが強い中山間地域における高齢者の「自ら選んだ」社会的孤立とフレイルおよびQOLとの関連に関する研究
単独	木村 由香	横浜国立大学大学院	高齢者が終活を進めるうえでの課題と支援のあり方に関する研究
単独	榊原 良太	鹿児島大学	高齢者の幸福感の上昇はいかにもたらされるのか：感情制御発達という視座からの検討
共同	鈴木 淳一	東京大学	ヒト型ロボットによる認知症患者の認知機能の改善効果の検討
共同	高橋 幸裕	尚美学園大学	介護現場における介護職と看護職による「看取り」と「死」の持つ意味の差異を踏まえたケアの提供方法と連携方法の構築に関する研究
単独	長尾 匡子	千里金蘭大学	高齢者の終末期医療についての意思決定に関わる看護師への支援プログラムの開発—インフォームド・コンセントにおける専門職としての役割遂行を目指して—
共同	永野 志歩	高知大学医学部 附属病院	老年期の軽度認知障害者とADHDの有病率の検討
単独	野坂 真	早稲田大学	災害後の地域社会における高齢者の生きがいづくりと経験・記憶の継承に関する実践的研究—岩手県大槌町における地域アーカイブ活動を中心事例として—
共同	原田 和弘	神戸大学大学院	ワーク・エンゲイジメントが高齢夫婦の満足度・精神的健康に及ぼす影響
共同	松本 博成	東京大学大学院	要介護高齢者におけるデイサービスでの社会化プロセスに関する縦断的質的研究：デイサービスを利用し始める要介護高齢者は、その場の文化をどのようなものとして理解し、その場のコミュニティにどのように溶け込むのか？

※共同研究の場合代表研究者

形態	対象者※	所属	研究テーマ
単独	池内 朋子	桜美林大学 大学院	つらい出来事の会話における「平常さ」の 効用
単独	今井 朋実	日本社会事業 大学大学院	若年性認知症とその家族を対象とした デイサービス・デイケアの暫定支援効果モデル の開発に関する研究
共同	内田 博之	城西大学	わが国の高齢者死亡動向の性差・年齢、時 代およびコホート効果の評価と将来予測－
共同	打江 かおり	関西学院大学 大学院	写真投影法で映し出される心理的居場所感 の生涯発達－縦断的・横断的検討の試み－
共同	大久保 智生	香川大学	地域と連携した高齢者向け防犯教育プロ グラムの開発－高齢者が被害者及び加害者にな らないための心理教育－
単独	大庭 輝	大阪大学大学院	介護職員の有能感向上に資する研修効果 の検討－講義形式と事例検討形式による 比較－
単独	小川 将	中央大学大学院	地域在住高齢者を対象とした筆記表現法 の適用可能性の検討
共同	辛島 順子	実践女子大学	セルフモニタリングを用いた高齢者の 栄養状態維持・改善に関する研究
共同	佐々木 由美子	町立中標津病院	服薬アセスメントシート作成による自己管理 能力評価の試み－高齢者の服薬管理自立 度を入院前後で低下させないために－
共同	佐藤 美由紀	神奈川工科大学	高齢者の役割見直しによって創出された 地域活動10年間のプロセスと効果－住民主 体により活動が継続されている理由と高齢者 及び地域社会に対する影響－
共同	島田 千穂	東京都健康長寿 医療センター研究所	日本の高齢患者はなぜ終末期医療の希望 を事前に伝達しないのか－医療に対する自 律性と家族との関係性との関連分析－
共同	志茂 聡	健康科学大学	高齢農業従事者における労働負担と健康に 関する実態調査および新たな健康支援策の 検討
単独	田口 潤	日本社会事業 大学大学院	介護福祉士の現場での「経験」から学習した 「知識」「スキル」に関する研究
共同	富澤 公子	立命館大学	健康長寿と幸福な老いの環境要因－長寿 地域「京丹後市」を事例とした実証研究－
共同	永田 祐	同志社大学	インフォーマルな社会資源と連携した地域包 括ケアシステムの構築－連携が生成する ロジックとシステムへの統合の課題に関する 研究－
共同	宮國 康弘	千葉大学	ソーシャル・キャピタルの介護予防効果に関 する研究－地域レベルのソーシャル・キャピ タルは、個人レベルの健康に関連があるのか－
共同	安元 佐織	大阪大学大学院	超高齢社会における世代間交流の意味－ 百寿者の子どもの語りから学ぶ「歳をとる」こ との意味の変容－
単独	安永 正史	東京都健康長寿 医療センター研究所	高齢者の文化系社会活動への参加が心身 の健康に及ぼす効果の検証
単独	野中 久美子	東京都健康長寿 医療センター研究所	要介護認定を受けた高齢者のボランティア 活動の実態